

かしうのみある、

〔兵範記〕仁安三年十月六日甲午、兵庫寮要劇田所課山城國司信家功、宛河原禊所反橋并黑木等、無先例由事、同宣下、

〔増鏡十五秋のみ山〕あくる春元亨正月三日、○中門の下よりいづるやり水にちいさくわたされたるそりはしの左右に、兩大將ひざまづく、

〔康富記〕文安六年四月廿三日癸酉、賀茂祭也、○中兼日反橋破損、

〔筑紫道記宗祇〕十六日、○文明十二年九月、中略、宰府聖廟へまゐる、○中反橋たかうして二有、

〔河内名所圖會古市郡〕長野山譽田八幡宮、譽田村にあり、石反橋奥院に

〔東海道名所記〕右のかたに三島の明神のやしろあり、鳥井の内にそりはしあり、橋の下には雁をし鳥鷗あり、

〔日前國懸兩大神宮書立〕往代宮社殿門之大略、小反橋一箇所、大反橋一箇所

〔嚴島圖會〕圓橋、○大宮の左にあり、御池に架せり、幅二間、長十四間、俗に反橋と呼ぶ、

〔兵主大明神緣起〕馬場の外に大鳥居、その所に東流の井河あり、輪橋をかけたり、

〔本朝續文粹雜詩〕參安樂寺

江都督

康和二年秋、清涼八月時、我詣安樂寺、寺在東北陲、○中鶴舟維古岸、虹橋照漣漪、

〔本朝世紀〕久安六年十月二日甲辰、今日美福門院於法勝寺被供養金字一切經、○中辰刻天皇衛近

臨幸、○中龍頭鶴首夾虹橋、鸞輿奏何歷池橋寄御輿軒廊北陣壇下、

〔八雲御抄〕橋たま

〔神道名目類聚抄〕御橋玉橋トハ、御橋ヲ稱美シテ云、

〔倭訓栞〕たまし玉橋の義玉はほめたる詞、七夕などよめり、